
「新しい算数」 評価規準 【2年】

単元名	学びの とびら			教科書の ページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要 領の内容	第 1 学年の内容

時	目標	学習活動
1	・算数科の学び方, 問題解決の方法やノートをつくり方を共有したり, 教科書の使い方を確認したりして, 子どもたちが自ら教科書を有効に活用して, 主体的, 対話的で深い学びを実現できるようにする。 上p.2～7	①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1 ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることにふれ, 算数の学習はこれまでの学習を基に積み重ねられていること, 以後の学習へつながっていることに気づかせる。また, p.1 下欄を見て, 前学年までに働かせ, 成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て, デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法, 使用上の留意点にふれる。 ②「授業ページ」(30分) p.2～3 ・前学年までの学習で解決できる問題について, 数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して, 算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 ③「算数マイノートをつくろう」(7分) p.4～5 ・「授業ページ」におけるノートの例を参考にしながら, ノートのつくり方を学級で共有する。 ④「“新しい算数”を使った学習の進め方」(3分) p.6～7 ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには, 随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること, その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題), 「ふりかえりコーナー」(知識の振り返り), 「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し, 適宜活用するとよいことを知らせる。 ※「指導者・保護者のみなさまへ」について これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え, 子どもたちが学習習慣(特に家庭での自学自習)を身につけるためには家庭での理解・協力が不可欠であると考え, 掲載したものである。保護者の方々とも連携を図りながら, 教科書を有効に活用していただきたい。

単元名	1. わかりやすく あらわそう [グラフと ひょう]			教科書の ページ	上 p.8～11
配当時間	3 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要 領の内容	D(1)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		簡単なグラフや表について理解し、データを整理する観点を定め、簡単なグラフや表を通じて特徴をとらえ、考察する力を養うとともに、グラフや表を用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	身の回りにある数量を分類整理し、簡単なグラフや表を用いて表したり読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	データを整理する観点到着目し、身の回りの事象についてグラフや表を用いて考察している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りの事象に関心をもち、グラフや表を用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) グラフと ひょう 上p.8～10 2 時間			
1	[プロローグ] 上p.8	①p.8 の絵を提示し、昼休みの過ごし方について話し合うことを通して、身の回りにある数量を分類整理して表すという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・身の回りにある数量を、整理する観点を決めて分類整理し、グラフや一次元表に表すことができる。 上p.9	①絵を見て、昼休みにしたことごとにグラフにまとめる。 ②昼休みにしたことの人数を数え、表にまとめる。 * デジタルコンテンツ設定有	【知技】 身の回りにある数量を、整理する観点を決めて分類整理し、グラフや表に表すことができる。 【観察・ノート】
2	・データを整理する観点到着目し、グラフや一次元表を読み取り、そのよさに気づき説明することができる。 上p.10	①グラフや表を読み、そのよさについて話し合う。	【思判表】 データを整理する観点到着目し、身の回りの事象についてグラフや表を用いて考察している。 【観察・ノート】
まとめ 上p.11 1 時間			
3	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.11	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【思判表】 数学的な着重点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】

単元名	2. たし算のしかたを 考えよう [たし算の ひっ算]			教科書の ページ	上 p.12～23, 127
配当時間	8 時間	活動時期	4 月中旬～ 5 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		2 位数の加法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の加法計算が、1 位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできるとともに、その筆算の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	数の仕組みに着目し、2 位数の加法計算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数の加法の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算(1) 上p.12～16 3 時間			
1	[プロローグ] 上p.12	①p.12 の写真を提示し、買い物で代金を求める場面を想定した話し合いを通して、既習の加法計算を振り返るとともに、2 位数どうしの加法計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・ 2 位数の加法計算の仕方を考えることを通して、加法の筆算の仕方を理解する。 上p.13～15	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②35+12 の計算の仕方を考える。 ③各自の方法を発表し、検討する。	[知技]2 位数+2 位数=2 位数（繰り上がりなし）の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表]2 位数の加法計算の仕方を、ブロックや式などを用いて数の仕組み（十進位取り記数法）に着目して考え、説明している。【観察・ノート】 [態度]既習の加法計算の学習を基に、2 位数の加法計算の仕方を考えようとしている。【観察・ノート】
2		①筆算の仕方をまとめる。 ②計算練習をする。	
3	・ 2 位数+1 位数=2 位数（繰り上がりなし、欠位、空位あり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.16	①32+4 の筆算の仕方を考える。 ②43+5, 7+52, 3+70 の筆算の仕方を考える。 ③計算練習をする。	[知技]筆算形式による 2 位数+1 位数=2 位数（繰り上がりなし、欠位、空位あり）の加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(2) たし算(2) 上p.17～19 3時間			
4	・2位数+2位数=2位数(繰り上がりあり)の筆算の仕方を、数の仕組みに着目して考え、説明することができる。 上p.17～18	①問題場面から数量の関係をとりえ、立式する。	【知技】 筆算形式による2位数+2位数=2位数(繰り上がりあり)の加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 【観察・ノート】 【思判表】 繰り上がりのある場合の加法の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。 【観察・ノート】
5		②35+29の計算の仕方を考える。 ①35+29の筆算の仕方を考え、まとめる。 ②計算練習をする。	
6	・2位数+1,2位数=2位数(繰り上がりあり、答えの一の位に空位あり、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.19	①28+32, 28+6, 3+87の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。	【知技】 筆算形式による2位数+1,2位数=2位数(繰り上がりあり、答えの一の位に空位あり、欠位あり)の加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 【観察・ノート】
(3) たし算のきまり 上p.20～21 1時間			
7	・加法について交換法則が成り立つことを理解する。 上p.20～21	①問題場面から数量の関係をとりえ、テープ図を完成させる。 ②テープ図を基に立式する。 ③17+24=41と24+17=41の2つの式を比べて、気づいたことを発表する。 ④加法計算をして、交換法則を用いて答えを確かめる。	【知技】 加法について交換法則が成り立つことを理解している。 【観察・ノート】
まとめ 上p.22～23, 127 1時間			
8	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.22～23	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】
・ 【発展】 巻末p.127の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、加法についての理解を深める。			

単元名	3. ひき算のしかたを考えよう [ひき算のひっ算]			教科書の ページ	上 p.24～35, 127
配当時間	8 時間	活動時期	5 月上旬～下旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(ウ)(エ), イ (ア)

単元の目標		2 位数の減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の減法計算が、1 位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできるとともに、その筆算の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	数の仕組みに着目し、2 位数の減法計算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数の減法の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) ひき算(1) 上p.24～28 3 時間			
1	[プロローグ] 上p.24	①p.24 の写真を提示し、買い物で残金を求める場面を想定した話し合いを通して、既習の減法計算を振り返るとともに、2 位数どうしの減法計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	[知技]2 位数－2 位数（繰り下がりなし）の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表]2 位数の減法計算の仕方を、ブロックや式などを用いて数の仕組み（十進位取り記数法）に着目して考え、説明している。【観察・ノート】 [態度]既習の減法計算の学習を基に、2 位数の減法計算の仕方を考えようとしている。【観察・ノート】
	・2 位数の減法計算の仕方を考えることを通して、減法の筆算の仕方を理解する。 上p.25～27	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②47－15 の計算の仕方を考える。 ③各自の方法を発表し、検討する。	
2		①筆算の仕方をまとめる。 ②計算練習をする。	
3	・2 位数－1, 2 位数（繰り下がりなし、空位、欠位あり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.28	①36－26, 36－32, 36－2 の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。	[知技]筆算形式による 2 位数－1, 2 位数（繰り下がりなし、空位、欠位あり）の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(2) ひき算(2) 上p.29～31 3 時間			
4	・2 位数－2 位数（繰り下がりあり）の筆算の仕方を，数の仕組みに着目して考え，説明することができる。 上p.29～30	①問題場面から数量の関係をとりえ，立式する。	【知技】 筆算形式による 2 位数－2 位数（繰り下がりあり）の減法計算の仕方を理解し，答えを求めることができる。 【観察・ノート】 【思判表】 繰り下がりのある場合の減法の筆算の仕方を，式や言葉などを用いて数の仕組み（十進位取り記数法）に着目して考え，説明している。 【観察・ノート】
5		②47－18 の計算の仕方を考える。 ①47－18 の筆算の仕方を考え，まとめる。 ②計算練習をする。	
6	・2 位数－1，2 位数（繰り下がりあり，空位，欠位あり）の筆算の仕方を理解し，その計算ができる。 上p.31	①40－18，45－38，45－8，40－8 の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。	【知技】 筆算形式による 2 位数－1，2 位数（繰り下がりあり，空位，欠位あり）の減法計算の仕方を理解し，答えを求めることができる。 【観察・ノート】
(3) ひき算の きまり 上p.32～33 1 時間			
7	・減法と加法の関係を理解し，答えの確かめに用いることができる。 上p.32～33	①問題場面から数量の関係をとりえ，テープ図を完成させる。 ②テープ図を基に立式し，答えを求める。 ③41－15 の答え 26 に減数の 15 をたした結果を被減数と比べる。 ④減法計算をして，減法と加法の関係をj用いて答えを確かめる。	【知技】 減法と加法の関係をj用いると，減法の答えを加法で確かめられることを理解し，答えの確かめに用いることができる。 【観察・ノート】
まとめ 上p.34～35，127 1 時間			
8	・学習内容の定着を確認するとともに，数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.34～35	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら，単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り，価値づけたり，今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】
・ 【発展】 巻末 p.127 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み，単元の学習内容を数学の世界で活用し，減法についての理解を深める。			

単元名	どんな 計算に なるのかな？			教科書の ページ	上 p.36～37
配当時数	2 時間	活動時期	5 月下旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア), イ(ア)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	・2 位数の加減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。 上p.36～37	①問題文を読み, どのような式になるかを考えて解決する。	[知技]適切な立式をして, 問題を解決することができる。【観察・ノート】 [態度]既習を活用して, どのような式で解決すればよいかを考えようとしている。【観察・ノート】
2		①絵を見て作問し, 友達と問題を出し合うなどして解決する。	

単元名	おぼえているかな？			教科書の ページ	上 p.38
配当時数	—	活動時期	5 月下旬	学習指導要 領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・既習内容の理解を確認する。 上p.38	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】

単元名	4. 長さを はかって あらわそう [長さの たんい]			教科書の ページ	上 p.39～51
配当時数	9 時間	活動時期	5 月下旬～ 6 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、長さについて量の感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さについて単位と測定の意味や、単位の関係、物差しを目盛りの仕組みを理解し、およその見当をつけながら量の感覚を身につけるとともに、身の回りのものの長さを測定したり、指定された長さの直線をひいたりすることができる。
	思考・判断・表現	普遍単位の必要性に気づき、身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの長さに関心を持ち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 長さの たんい 上p.39～47 6 時間			
1	[プロローグ] 上p.39～40	①p.39 の写真を提示し、3 本の鉛筆の長さの長短を予想し、長さを比較する方法を考えさせ、任意単位の比較では限界があることについての話し合いを通して、長さの測定や表し方について考えるという単元の課題を設定する。	
2	・ 普遍単位の必要性に気づき、長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解するとともに、簡易物差しによる測定活動を通して、測定の仕方を身につける。 上p.41～42	①普遍単位の必要性に気づき、長さの単位「センチメートル (cm)」を知る。 ②2cm は 1cm の 2 つ分、3cm は 3 つ分、…であることをおさえながら、1cm 目盛りの簡易物差しの目盛りの数を書き込む。 ③1cm 目盛りの簡易物差しで、いろいろなものの長さをはかる。 ④手や指で 10cm の長さをつくり、身の回りから 10cm の長さのものをを見つける。	[知技] 長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解するとともに、簡易物差しを使って、長さを cm の単位を用いて測定することができる。【観察・ノート】 [思判表] 任意単位の限界や普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え、説明している。【観察・ノート】
3	・ 1cm に満たない長さを表すのに新たな下位単位の必要性に気づき、長さを表す単位「ミリメートル (mm)」を知り、1cm=10mm の関係を理解する。 上p.43～44	①葉書の縦の長さをはかり、1cm 未満の長さの表し方を考える。 ②1cm を 10 等分した 1 つ分の長さを「1 ミリメートル」といい、「1mm」と書くことを知る。 ③1cm=10mm の関係を確認する。	[知技] 長さを表す単位「ミリメートル (mm)」とその読み方や書き方、1cm=10mm の関係を理解している。【観察・ノート】 [思判表] 身の回りにあるものの長さに着目し、1cm に満たない長さを表すのに、新たな下位単位の必要性に気づいている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	物差しを目盛りの読み方を理解し、長さの測定の仕方に習熟する。 上p.45	①物差しを目盛りを読む練習をする。 ②物差しを使って、いろいろなものの長さをはかる。	【知技】量感を基に見当をつけながら、長さをcmやmmの単位を用いて測定することができる。【観察・ノート】 【態度】身の回りにあるものの長さに関心をもち、測定しようとしている。【観察・ノート】
5	直線の意味を知り、同じ長さを、○cm○mmと、○mmの両方で表すことができる。 上p.46～47	①「直線」の意味を知る。 ②「センチメートル (cm)」、「ミリメートル (mm)」を用いて、直線の長さを表す。	【知技】直線の意味を理解し、同じ長さを、○cm○mmと、○mmの両方で表すことができる。【観察・ノート】
6	指定された長さの直線を、物差しを使ってひくことができる。 上p.47	①物差しを用いた直線のひき方を練習する。 * デジタルコンテンツ設定有	【知技】指定された長さの直線を、物差しを使ってひくことができる。【観察・ノート】
(2) 長さの 計算 上p.48 1 時間			
7	長さの加減計算の仕方を理解する。 上p.48	①折れ線全体の長さや2本の折れ線の長さの差を、加減計算を適用して求める。	【知技】長さの加法性や、同じ単位の数どうしを計算すればよいことを理解している。【観察・ノート】
まとめ 上p.49～51 2 時間			
8	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上p.49	①「いかしてみよう」物差しを使って、いろいろなものの長さをはかり、測定結果を記録してまとめ、発表し合う。 ②「ますりんつうしん」を読み、長い直線のひき方について知り、算数への興味・関心を高める。	【思判表】学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。【観察・ノート】 【態度】学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.50～51	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	5. 100 より 大きい 数を しらべよう [3 けたの 数]			教科書の ページ	上 p.52～67, 128
配当時数	12 時間	活動時期	6 月上旬～下旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) (2)ア(イ), イ(ア)

単元の目標		1000 までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	3 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。
	思考・判断・表現	10 や 100 のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	10 や 100 のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 数の あらわし方と しくみ 上p.52～61 8 時間			
1	・ 3 位数の読み方や表し方を理解する。 上p.52～55	①写真を見て、235 個のクリップの数を工夫して数える。 ②235 の数構成と命数法、記数法を知る。 ③クリップの数を数字で表す。 ④用語「百の位」を知る。	[知技]3 位数の読み方や表し方を理解し、3 位数を書いたり読んだりすることができる。【観察・ノート】 [態度]10 や 100 のまとまりに着目することのよさに気づき、クリップの数を工夫して数えようとしている。【観察・ノート】
2		①205 個のブロックの数を数字で表す。 ②棒や色紙の数を数字で表す。 ③3 位数を書いたり読んだりする。	
3	・ 数カードを並べて数を表すことを通して、3 位数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 上p.56～57	①位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3 位数を数カードで表したりする。 * デジタルコンテンツ設定有	[知技]3 位数の各位の数字はそれぞれ 100, 10, 1 の単位の個数を示し、10 以上の数が入らないことを理解し、3 位数の構成を等式で表すことができる。【観察・ノート】
4		①3 位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。 ②3 位数の構成を、等式を使って表す。	
5	・ 230 などの数について、数のまとまりに着目して数の相対的な大きさをとらえることができる。 上p.58	①10 円玉が 14 枚でどれだけになるかを、10 を単位にして考える。 ②230 円は 10 円玉で何枚になるかを、10 を単位にして考える。	[思判表]数のまとまりに着目し、230 などの数を 10 を単位としてとらえている。【観察・ノート】
6	・ 数直線の読み取りを通して、3 位数の大小、順序を理解する。 上p.59	①数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。	[知技]数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
7	・1000 の構成、数の読み方、書き方及び1000 付近の数を理解する。 上p.60	①図の●の数を工夫して数え、百を10こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くことを知る。	【知技】 百を10こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くこと、及び1000 付近の数を理解している。 【観察・ノート】
8	・1000 までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。 上p.61	①780 のいろいろな見方を表現する。 ②表現した見方を、式を使って表す。	【思判表】 数の構成に着目し、1000 までの数の多様な見方について考え、説明している。 【観察・ノート】
(2) 何十、何百の 計算 上p.62～63 1 時間			
9	・何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明することができる。 上p.62～63	①10 枚の束の色紙の絵を見て、 $50+70$ 、 $120-30$ の計算の仕方を考える。 ②100 枚の束の色紙の絵を見て、 $300+200$ 、 $600-200$ の計算の仕方を考える。 ③10 や 100 を単位にして数を単位としてとらえると、1 位数の加減計算に帰着できることをまとめる。 ④数の構成(何百といくつ)に基づいて、 $500+30$ などの計算の仕方を考える。	【知技】 何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。 【観察・ノート】 【思判表】 何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明している。 【観察・ノート】
(3) 数の 大小 上p.64～65 2 時間			
10	・不等号「 $>$ 」「 $<$ 」を知り、数の大小関係を式に表すことができる。 上p.64	①3 つの学校の児童数の大小を比較する。 ②不等号「 $>$ 」「 $<$ 」を用いた式の表し方を知り、数の大小を不等号を用いて表す。	【知技】 不等号「 $>$ 」「 $<$ 」の意味を理解し、数の大小関係を不等号を用いて式に表すことができる。 【観察・ノート】
11	・数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。 上p.65	①問題を読み、150 円で買える品物を調べる。 ②数と式の大小、相等関係の表し方を知る。	【知技】 数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。 【観察・ノート】
まとめ 上p.66～67, 128 1 時間			
12	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.66～67	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】
・ 【発展】 巻末 p.128 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、1000 までの数についての理解を深める。			

単元名	6. 水の かさを はかって あらわそう [水の かさの たんい]			教科書の ページ	上 p.68～77
配当時数	8 時間	活動時期	6 月下旬～ 7 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		体積について、測定などの活動を通して、長さの学習を基に単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、体積について量の感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	体積について単位と測定の意味や、単位の関係を理解し、およその見当をつけながら量の感覚を身につけるとともに、体積の単位を適切に選択して身の回りにある入れ物に入る水の体積を測定することができる。
	思考・判断・表現	長さの学習を基に、普遍単位の必要性に気づき、身の回りにある入れ物の特徴をその中に入る水の体積に着目してとらえ、目的に応じた単位で体積を的確に表現したり、比べたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 水の かさの たんい 上p.68～75 6 時間			
1	[プロローグ] 上p.68	①p.68 のコマ絵を提示し、2 人の比べ方についての話し合いを通して、任意単位の比較では限界があることに気づかせ、容器に入る水の体積の測定や表し方について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・ 普遍単位の必要性に気づき、体積を表す単位「デシリットル(dL)」を知り、その読み方や書き方を理解する。 上p.69～71	①プロローグの話し合いを受けて、同じ大きさのプリンカップで 2 つの水筒に入る水の体積を比較する。 ②共通の任意単位で 2 つの水筒に入る水の体積を数値化する。 ③共通の任意単位であっても、比較の限界があることを知る。	【知技】体積を表す単位「デシリットル(dL)」を知り、その読み方や書き方を理解するとともに、容器に入る水の体積を 1dL のますではかることができる。【観察・ノート】
2		①体積の単位「デシリットル(dL)」を知る。 ②水筒に入る水の体積を dL を使って表す。 ③身の回りの容器に入る水の体積を 1dL のますではかる。	【思判表】長さの学習を基に、体積について任意単位の限界や普遍単位の必要性を考えている。【観察・ノート】
3	・ より大きな体積を表すのに上位単位の必要性に気づき、体積を表す単位「リットル(L)」について知り、1L=10dL の関係を理解する。 上p.71～72	①大きな紙パックに入る水の体積を調べる。 ②体積の単位「リットル(L)」を知り、1L=10dL の関係を確認する。	【知技】体積を表す単位「リットル(L)」を知り、1L=10dL の関係を理解している。【観察・ノート】 【態度】数の位取りの学習を基に、体積の上位単位を考えようとしている。 【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	・ L や dL を用いた体積の表し方を理解する。 上p.73	①L, dL を用いて, 体積を表す。	[知技]L や dL を用いた体積の表し方を理解している。【観察・ノート】
5	・ 1 dL より小さな体積を表すのに下位単位の必要性に気づき, 体積を表す単位「ミリリットル(mL)」について知り, 1L=1000mL の関係を理解する。 上p.74	①絵を見て, 1dL より少ないはしたの表し方に着目する。 ②体積の単位「ミリリットル(mL)」を知り, 1L=1000mL の関係を確認する。	[知技]体積を表す単位「ミリリットル(mL)」を知り, 1L=1000mL の関係を理解している。【観察・ノート】 [思判表]身の回りにあるものの体積に着目し, 1dL に満たない体積を表すのに, 新たな下位単位の必要性に気づいている。【観察・ノート】
6	・ 体積の加減計算の仕方を理解する。 上p.75	①2 つの水筒に入る水の体積の和や差を, 加減計算を適用して求める。	[知技]体積の加法性や, 同じ単位の数どうしを計算すればよいことを理解している。【観察・ノート】
まとめ 上p.76~77 2 時間			
7	・ 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し, 問題を解決する。 上p.76	[いかしてみよう] ①身の回りから, L や mL の表示がされている容器を探す。	[思判表]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え, 問題を解決している。【観察・ノート】 [態度]学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
8	・ 学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.76~77	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら, 単元の学習を整理している。【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り, 価値づけたり, 今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	おぼえているかな？			教科書の ページ	上 p.78
配当時数	—	活動時期	7 月上旬	学習指導要 領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・ 既習内容の理解を確認する。 上p.78	① 「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】

単元名	7. 時計を 生活に 生かそう [時こくと 時間]			教科書の ページ	上 p.79～83, 128
配当時数	2 時間	活動時期	7 月中旬	学習指導要 領の内容	C(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		時刻と時間の概念，日，時，分の単位やそれらの関係を理解し，数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養うとともに，それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	時刻と時間の区別，及び日，時，分の単位やそれらの関係を理解し，時刻や時間を求めたり，表したりすることができる。
	思考・判断・表現	時間の単位に着目し，図などを用いて時刻と時間の求め方を考え，説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻や時間に関心をもち，数学的に表現・処理したことを振り返り，数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 時こくと 時間 上p.79～83, 128 2 時間			
1	[プロローグ] 上p.79 ・「時刻」「時間」の意味や，時，分の関係を理解する。 上p.80～81	①日常生活の中で，どんなときに時計を読んでいるかについての話し合いを通して，時刻と時間に関わる時計をさらに生活に生かしていくという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ②絵を見て，各場面の時刻を読む。 ③図を見て，「時刻」と「時間」の意味の違いを考える。 ④簡単な場合の時刻や時間を求める。 ⑤1 時間＝60 分であることを知る。 * デジタルコンテンツ設定有	【知技】時刻と時間の意味や，1 時間＝60 分の関係を理解している。【観察・ノート】 【思判表】時計盤や数直線を用いて，時刻と時間の求め方を考え，説明している。【観察・ノート】
2	・「午前」「午後」の意味や，日，時の関係を理解する。 上p.82～83	①絵を見て，同じ読み方の時刻が 1 日に 2 回あることに気づき，「午前」と「午後」の意味を知る。 ②午前，午後ともに 12 時間あることから，1 日＝24 時間であることをおさえる。	【知技】午前，午後の意味や，1 日＝24 時間の関係を理解し，午前，午後を用いて時刻を表すことができる。【観察・ノート】 【態度】時刻や時間に関心をもち，日常生活で生かそうとしている。【観察・ノート】
・【発展】 巻末 p.128 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み，単元の学習内容を活用し，時刻と時間についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書の ページ	上 p.84
配当時数	—	活動時期	7 月中旬	学習指導要 領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・ 既習内容の理解を確認する。 上p.84	① 「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】

単元名	8. 計算のしかたをくふうしよう [計算のくふう]			教科書の ページ	上 p.85～89
配当時間	5 時間	活動時期	9 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)(3)

単元の目標		加法の結合法則，簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して，加減計算についての理解を深め，計算の仕方を数や式をよく見て考える力を養うとともに，計算法則，数の見方や構成を活用して計算方法を考えた過程を振り返り，そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	加法の結合法則や（ ）の用い方を理解するとともに，簡単な加減法の暗算ができる。
	思考・判断・表現	（ ）の中を 1 つの数とみて，式の意味を考え表現したり場面を式に表したりするとともに，3 口の数の加法計算について，数量の関係に着目し，結合法則などを基に工夫して計算している。
	主体的に学習に 取り組む態度	加減の計算方法について，計算法則，数の見方や構成を活用して考えた過程や結果を振り返り，数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算の きまり 上p.85～87 2 時間			
1	・ 加法の結合法則と，（ ）の用い方を理解し，3 口の数の加法計算ができる。 上p.85～87	①問題場面から数量の関係をとらえ，立式する。 ② $7+12+8$ の計算の仕方を考える。 ③加法ではたす順序を変えても答えは同じになることをまとめる。 ④（ ）の用い方を知り，それを使って考えを式に表し，加法計算をする。	【知技】 （ ）の用い方や加法の結合法則を理解し，それらを用いて，3 口の数の加法計算ができる。 【観察・ノート】 【態度】 結合法則などを基に，3 口の数の加法計算の仕方を工夫しようとしている。 【観察・ノート】
2	・ 3 口の数の加法計算の場面を，（ ）を用いた式に表したり，（ ）を用いた式から考えを読み取ったりすることができる。 上p.87	①問題場面から数量関係をとらえ，（ ）を用いて 3 口の加法の式を立てる。 ②（ ）を用いた式を読み，どのように考えたかを説明する。	【思判表】 3 口の数の加法の場面を，数量の関係に着目して（ ）を用いた式で表したり，（ ）を用いた式から考えを読み取ったりしている。 【観察・ノート】
(2) たし算と ひき算 上p.88 2 時間			
3	・ 簡単な加減法の暗算の仕方を理解し，その計算ができる。 上p.88	① $26+7$ の計算を加数分解や被加数分解で暗算する。 ②加法の暗算の練習問題に取り組む。	【知技】 2 位数±1 位数の暗算ができる。 【観察・ノート】 【態度】 数の見方や構成を活用して，暗算の仕方を考えようとしている。 【観察・ノート】
4		① $42-7$ の計算を工夫して暗算する。 ②減法の暗算の練習問題に取り組む。	

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.89 1時間			
5	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.89	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら，単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り，価値づけたり，今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】

単元名	9. ひっ算のしかたを 考えよう [たし算と ひき算の ひっ算]			教科書の ページ	上 p.90～103, 129
配当時数	10 時間	活動時期	9 月上旬～下旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		既習の筆算を基に、2 位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の加法及びその逆の減法の計算について、1 位数などの基本的な計算を基にできることを知り、それらの筆算の仕方について理解し、筆算の手順を基に確実に計算することができる。
	思考・判断・表現	既習の筆算を基に、数の仕組みに着目し、2 位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2, 3 位数の加減の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算の ひっ算 上p.90～93 2 時間			
1	[プロローグ] 上p.90	①p.90 の絵からメダルの数を求める計算の仕方についての話し合いを通して、既習の加減計算を振り返るとともに、数が大きくなった場合の加減計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・ 2 位数+2 位数=3 位数 (百の位への繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.91～92	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②83+46 の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]2 位数の加法の計算が 1 位数の計算を基にしていることを理解している。【観察・ノート】 [態度]既習の加法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、2 位数+2 位数=3 位数(百の位への繰り上がりあり)の筆算の仕方を考えようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
2	・2位数+2位数=3位数(十, 百の位への繰り上がりあり)や, 2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を, 数の見方や既習の加法筆算の仕方を基に考え, 説明することができる。 上p.93	①76+58の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。 ③46+57, 93+8の筆算の仕方を考える。 ④計算練習をする。	[知技]2位数+2位数=3位数(十, 百の位への繰り上がりあり)や, 2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し, 答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表]既習を基に, 2位数+2位数=3位数(十, 百の位への繰り上がりあり)や, 2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を, 式や言葉などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え, 説明している。【観察・ノート】
(2) れんしゅう 上p.94 1時間			
3	・学習内容を適用して問題を解決する。 上p.94	①「れんしゅう」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】
(3) ひき算の ひっ算 上p.95～99 4時間			
4	・3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。 上p.95～96	①問題場面から数量の関係をとらえ, 立式する。 ②129-53の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]3位数-2位数の計算が1位数の計算を基にしていることを理解している。【観察・ノート】 [態度]既習の減法との違いをとらえ, 既習の筆算の仕方を基に, 3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考えようとしている。【観察・ノート】
5	・3位数-2位数(十, 百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を, 数の見方や既習の筆算の仕方を基に考え, 説明することができる。 上p.97	①146-89の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。 ③計算練習をする。	[知技]3位数-2位数(十, 百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し, 答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表]既習を基に, 3位数-2位数(十, 百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を, 式や言葉などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え, 説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
6	・3位数－1, 2位数(十, 百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。 上p.97～99	①102－65の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。 ③計算練習をする。	[知技]3位数－1, 2位数(十, 百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し, 答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表]既習を基に, 3位数－1, 2位数(十, 百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を, 式や言葉などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え, 説明している。【観察・ノート】
7		①計算練習をする。 ②文章題に取り組む。	
(4) 大きい 数の ひっ算 上p.100～101 2時間 ※本小単元の内容は, 「スパイラルのため重複させる内容」であり, 次学年で確実な習得をねらう。			
8	・3位数+1, 2位数(百の位への繰り上がりなし)や3位数－1, 2位数(百の位からの繰り下がりなし)の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。 上p.100～101	①415+32の筆算の仕方を, 15+32を基に考える。 ②345－21の筆算の仕方を, 45－21を基に考える。 ③筆算の仕方をまとめる。	[知技]3位数±1, 2位数の筆算の仕方が, 1位数などの基本的な計算を基にしていることを理解している。【観察・ノート】
9		①18+345, 526+9の筆算の仕方を考える。 ②483－27, 524－6の筆算の仕方を考える。 ③計算練習をする。	
まとめ 上p.102～103, 129 1時間			
10	・学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.102～103	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら, 単元の学習を整理している。【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り, 価値づけたり, 今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.129の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を数学の世界で活用し, 加減法についての理解を深める。			

単元名	10. さんかくや しかくの 形を しらべよう [長方形と 正方形]			教科書の ページ	上 p.104～116
配当時数	10 時間	活動時期	9 月下旬～ 10 月上旬	学習指導要 領の内容	B(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(5)

単元の目標		平面図形に進んで関わり，図形についての感覚を豊かにしながら，三角形，四角形などの構成要素をとらえそれらの意味や性質を理解し，図形を構成する要素に着目してとらえる力を養うとともに，それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	三角形や四角形，直角，長方形，正方形，直角三角形の意味や性質を理解するとともに，紙を折って直角を作ったり，長方形や正方形などを作図したりすることができる。
	思考・判断・表現	辺や頂点など図形を構成する要素に着目し，三角形や四角形，長方形や正方形などの特徴を見だし，説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの形の中から，三角形や四角形，長方形や正方形などを見つけ図形としてとらえ，数学的に表現・処理したことを振り返り，数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 三角形と 四角形 上p.104～107 3 時間			
1	[プロローグ] 上p.104	①p.133 のパズルを使い，p.104 に示されたいろいろな形を作り，それらの形についての話し合いを通して，平面図形に親しむとともに，三角や四角の形について調べるという単元の課題を設定する。 * デジタルコンテンツ設定有 (所要時間は 30 分程度)	
2	・ 辺や頂点の数に着目して図形を分類する活動を通して，三角形，四角形の意味や性質を理解する。 上p.105～107	①辺や頂点の数に着目して，パズルの各ピースを仲間分けする。 ①「三角形」，「四角形」の意味や性質を理解する。 ②用語「辺」「頂点」を知る。	[知技]三角形，四角形の意味や性質を理解している。【観察・ノート】 [態度]図形の辺や頂点の数に着目して，図形を分類しようとしている。【観察・ノート】
3	・ 図形を弁別する活動などを通して，三角形，四角形についての理解を確実にする。 上p.107	①三角形，四角形を弁別する。 ②格子点を直線で結んで，三角形や四角形などの基本図形を構成する。	[知技]三角形や四角形を弁別したり，格子点を結んで作図したりすることができる。【観察・ノート】 [思判表]三角形や四角形の弁別の仕方を，構成要素などを観点として考え，説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(2) 長方形と 正方形 上p.108～113 5 時間			
4	・ 直角の意味を知り, 身の回りから直角を見つけることができる。 上p.108～109	①身の回りから四角形の形をしたものを探す。 ②紙を折って直角を作る。 ③操作を通して, 平角を2等分した形を「直角」ということを知る。 ④身の回りから直角を探す。	【知技】直角の意味を知り, 紙を折って直角を作ることができる。【観察・ノート】 【態度】身の回りにあるものの形の中から直角を見つけようとしている。【観察・ノート】
5	・ 長方形を構成要素に着目して見ることを通して, 長方形の意味や性質を理解する。 上p.109～110	①不定形の紙を折って長方形を作る。 ②全てのかどが直角であることを確かめる。 ③「長方形」の意味や性質をまとめる。 ④長方形を弁別する。	【知技】長方形は4つのかどが直角になっている四角形で, 対辺の長さが等しいことを理解している。【観察・ノート】 【思判表】図形の置かれた位置に関係なく, 長方形の意味や性質を見だし, 説明している。【観察・ノート】
6	・ 正方形を構成要素に着目して見ることを通して, 正方形の意味や性質を理解する。 上p.111	①長方形の紙を折ってはみだした部分を切り取って正方形を作る。 ②全てのかどが直角で, 全ての辺の長さが等しいことを確かめる。 ③「正方形」の意味や性質をまとめる。 ④正方形を弁別する。	【知技】正方形は4つのかどが直角で, 4辺の長さが等しい四角形であることを理解している。【観察・ノート】 【思判表】図形の置かれた位置に関係なく, 正方形の意味や性質を見だし, 説明している。【観察・ノート】
7	・ 長方形, 正方形を対角線で分割してできた三角形を, 構成要素に着目して見ることを通して, 直角三角形の意味や性質を理解する。 上p.112	①長方形, 正方形を対角線で分割してできた形について考える。 ②「直角三角形」の意味や性質をまとめる。	【知技】直角三角形は1つのかどが直角になっている三角形であることを理解している。【観察・ノート】
8	・ 方眼を利用した長方形, 正方形, 直角三角形のかき方を, 方眼の仕組みや図形の性質に着目して考え, 作図することができる。 上p.113	①方眼を利用して, 指定された長方形, 正方形, 直角三角形を作図する。	【知技】方眼を用いて, 長方形, 正方形, 直角三角形を作図することができる。【観察・ノート】 【思判表】方眼を利用した長方形, 正方形, 直角三角形のかき方を, 方眼の仕組みや図形の性質に着目して考え, 作図している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.114～116 2時間			
9	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上p.114	[いかしてみよう] ①身の回りから長方形や正方形の形をしたものを探す。 ②合同な長方形や直角三角形などを使って敷き詰め模様を作る。	[思判表]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 【観察・ノート】 【態度】学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
10	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.115～116	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	11. 新しい 計算を 考えよう [かけ算(1)]			教科書の ページ	下 p.2～24
配当時数	22 時間	活動時期	10 月中旬～ 11 月下旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(エ), イ(ア) (3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ) 内容の取扱い(4)

単元の目標		乗法の意味について理解し、計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質を見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質（乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九（5, 2, 3, 4の段）を構成し、確実に唱えたりすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) かけ算 下p.2～12 7時間			
1	[プロローグ] 下p.2 ・「1つ分の数」「いくつ分」ととらえ、「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。	①p.2の絵を提示し、①②の場面で人数の数えやすさについての話し合いを通して、新しい計算（かけ算）について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度) ①絵を見て、それぞれの乗り物に乗っている子どもの人数を調べる。 ②総数が同じでも1台に乗っている人数が違うことから、「1つ分の数」と「いくつ分」ととらえる。	[思判表]数量の関係に着目し、数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明している。【観察・ノート】 [態度]ものの全体の個数を、「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえるとよいことに気づき、数えようとしている。【観察・ノート】
2	下p.3～8	①絵やおはじきを使って、全体の人数の求め方を言葉で説明する。 ②$5 \times 3 = 15$の式の意味を知る。 ③「1つ分の数」と「いくつ分」が分かれば、全部の数を求められることをまとめる。 ④用語「かけ算」と記号「$\times$」を知る。	

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	・乗法の場面を式やおはじきで表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。 下p.8～9	①3, 4 ページの絵を見て、乗り物に乗っている人数をかけ算の式で表現する。 ②5, 4 のまとまりになっているものの写真を見て、乗法の式に表す。	[知技]乗法は、1 つ分の数の大きさが決まっているときに、そのいくつかにあたる大きさを求める場合に用いられることを理解している。【観察・ノート】
4		①乗法の式から、その場面をおはじきで表す。 ②並んだおはじきを乗法の場面としてとらえ、乗法の式に表す。	[思判表]具体物のまとまりに着目し、乗法が用いられる場面を式やおはじきで表し説明している。【観察・ノート】
5	・乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。 下p.10	①問題場面から数量の関係をとりえ、立式や答えの求め方について考える。 ②乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることをまとめる。	[知技]乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。【観察・ノート】
6	・倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解する。 下p.11	①3cm の 2 つ分を、3cm の「2 ばい」ということを知る。 ②3cm の 2 倍の長さを求めるときも、 3×2 のかけ算の式になることを知る。	[知技]倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解している。【観察・ノート】
7	・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下p.12	[いかしてみよう] ①身の回りからかけ算の式になる場面を見いだす。 ②どのような乗法の式になるかを、「1 つ分の数」 $\times$ 「いくつか分」=「全部の数」を基に説明する。	[思判表]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。【観察・ノート】 [態度]学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
(2) 5 のだん、2 のだんの 九九 下p.13～16 6 時間			
8	・5 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.13～14	①お菓子が 1 箱に 5 個ずつ入っているときの 1～4 箱分の個数を求める。 ②累加や 5 とび、アレイ図などを用いて 5 の段の九九を構成する。	[知技]5 の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】
9	・5 の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.14	①用語「九九」を知り、5 の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ②5 の段の九九の答えは 5 ずつ増えていることを確認する。	[知技]5 の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】
10		①5 の段の九九を用いて問題を解決する。	
11	・2 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.15～16	①1 皿にすしが 2 個ずつ乗っているときの 1～5 皿分の個数を求める。 ②累加や 2 とび、アレイ図などを用いて 2 の段の九九を構成する。	[知技]2 の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】 [思判表]5 の段の九九の構成の仕方を基に、2 の段の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
12	・ 2 の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.16	①2 の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ②2 の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。	[知技]2 の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】
13		①2 の段の九九を用いて問題を解決する。	
(3) 3 のだん, 4 のだんの 九九 下p.17～21 7 時間			
14	・ 3 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.17～18	①1 パックに3 個ずつ入っているプリンの1～4 パック分の個数を求める。 ②3×4 の答えにいくつたせば3×5 になるかを考える。 ③3×5 の答えに3 をたせば3×6 になることを活用して、3 の段の九九を構成する。 ④用語「かけられる数」「かける数」を知る。	[知技]3 の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】 [思判表]乗法について成り立つ性質を用いて、3 の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】
15		・ 3 の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.18	
16	①3 の段の九九を用いて問題を解決する。		
17	・ 4 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.19～20	①1 袋に4 個ずつ入っているみかんの1～5 袋分の個数を求める。 ②4×5 のかける数が1 増えると答えはいくつ増えているか確かめる。 ③4 の段では、かける数が1 増えると答えが4 増えることを活用して、4 の段の九九を構成する。	[知技]4 の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】 [思判表]乗法について成り立つ性質を用いて、4 の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】
18		・ 4 の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.20	
19	①4 の段の九九を用いて問題を解決する。		
20	・ 問題づくりによる, 式の読みや式に表現することを通して、5, 2, 3, 4 の段の九九の理解を深める。 下p.21	①2×5=10, 5×2=10 で表される問題の式と答えをそれぞれ考え、乗法の式の意味について理解を確かめる。	[知技]被乗数、乗数の意味を理解している。【観察・ノート】 [思判表]数量の関係に着目し、乗法の用いられる場面をとらえ、言葉や式で説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.22～24 2時間			
21 ・ 22	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.22～24	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 ①p.28の「ますりん通信」を読み、分配法則について関心をもつ。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】

単元名	九九ビンゴ			教科書のページ	下 p.25
配当時数	1 時間	活動時期	11 月下旬	学習指導要領の内容	A(3)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	・かけ算九九を活用して九九ビンゴに取り組み、かけ算九九の習熟を図る。 下p.25	①九九ビンゴに取り組みながら、かけ算九九を習熟する。	【態度】 かけ算九九を活用して、九九ビンゴに取り組もうとしている。 【観察・ノート】

単元名	12. 九九を つくろう [かけ算(2)]			教科書の ページ	下 p.29～50
配当時数	17 時間	活動時期	11 月下旬～ 12 月中旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(エ), イ(ア) (3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ) (オ), イ(ア)(イ) 内容の取扱い(4)

単元の目標		乗法の意味について理解を深め、計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質やきまりを見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にするとともに、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九(6, 7, 8, 9, 1 の段)を構成し、確実に唱えたりすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 6 のだん, 7 のだんの 九九 下p.29～32 6 時間			
1	・ 6 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.29～30	①6 の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や乗数と積の関係など既習の考えを活用して、6 の段の九九を構成する。	【態度】乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。【観察・ノート】
2	・ 6 の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.30	①6 の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ②6 の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。	【知技】6 の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】6 の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。【観察・ノート】
3		①6 の段の九九を用いて問題を解決する。	
4	・ 7 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.31～32	①7 の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や積と乗数の関係に加え、交換法則や分配法則など既習の考えを活用して、7 の段の九九を構成する。	【態度】乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
5	・7の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.32	①7の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ②7の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。	[知技]7の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]7の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。【観察・ノート】
6		①7の段の九九を用いて問題を解決する。	
(2) 8の段、9の段、1の段の九九 下p.33～38 5時間			
7	・8の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。 下p.33	①8の段の九九の構成の仕方について考える。 ②既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で8の段の九九を構成する。	[思判表]乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、8の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】
8	・8の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.34	①8の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習をする。 ②8の段の九九を用いて問題を解決する。	[知技]8の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】
9	・9の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。 下p.35	①9の段の九九の構成の仕方について考える。 ②既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で9の段の九九を構成する。	[思判表]乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、9の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】
10	・9の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.36	①9の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習をする。 ②9の段の九九を用いて問題を解決する。	[知技]9の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】
11	・1の段の九九を構成し、乗法の意味の理解を確実にする。 下p.37	①場面をとらえ、 1×6 の式からかけ算の意味を確かめる。 ②1の段の九九を唱える。	[知技]1の段の九九を構成することを通して、かけ算の意味を理解している。【観察・ノート】
	・九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動を通して、九九の習熟・定着を図る。 下p.38	①九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動に取り組む。 ②「ますりん通信」を読み、九九の由来について関心をもつ。	[知技]九九を確実に唱えることができる。【観察・ノート】 [態度]学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。【観察・ノート】
(3) 九九の ひょうと きまり 下p.39～41 2時間			
12	・九九表からきまりを見つける活動を通して、乗数と積の関係や、乗法の交換法則についての理解を深める。 下p.39～40	①九九表を見て、これまで九九の構成で用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を確認する。 ②りくの吹き出しを読み、分配法則について調べる。 *デジタルコンテンツ設定有	[態度]各段の九九を構成するときに用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を、乗法の性質やきまりとしてまとめようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
13	乗法の性質やきまりを用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明することができる。 下p.41	①九九表を基に、学習してきた性質やきまりを用いて、被乗数が2位数のかけ算について答えの求め方を考える。	【思判表】 乗数と積の関係や乗法の交換法則を用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明している。 【観察・ノート】
(4) ばいと かけ算 下p.42 1時間			
14	2cmの3倍の長さを求めたり、図を見て基準量の何倍かを考えたりし、「倍」についての理解を深める。 下p.42	①2cmの3倍の長さをかけ算を使って求める。 ②㊦、㊧のテープの図を見て、㊧のテープの長さは㊦のテープの長さの何倍かを考える。	【知技】 図を見て、比較量が基準量の何倍になるかを考え、倍を用いて表現することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 図を見て、比較量が基準量の何倍になるかを考え、説明している。 【観察・ノート】
(5) もんだい 下p.43～47 1時間			
15	[今日のふかい学び] 乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、説明することができる。 下p.43～47	①チョコレートの数のいろいろな求め方を、図を基に考える。 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③同じ数のまとまりに着目すればかけ算を用いて解決できることをまとめる。 * デジタルコンテンツ設定有	【思判表】 ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。 【観察・ノート】 【態度】 主体的、対話的に学習に取り組むとともに、乗法九九を総合的に活用して問題解決したことを振り返り、価値づけている。 【観察・ノート】
まとめ 下p.48～50 2時間			
16 ・ 17	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.48～50	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】

単元名	おぼえているかな？			教科書の ページ	下 p.51
配当時数	—	活動時期	12 月中旬	学習指導要 領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・ 既習内容の理解を確認する。 下p.51	① 「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】

単元名	13. 1000 より 大きい 数を しらべよう [4 けたの 数]			教科書の ページ	下 p.52～65
配当時数	11 時間	活動時期	1 月中旬～下旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(オ), イ(ア) (2)ア(イ), イ(ア) 内容の取扱い(1)

単元の目標		10000 までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	4 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。
	思考・判断・表現	数のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	数のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 4 けたの 数 下p.52～62 9 時間			
1	・ 10000 未満の数の数え方と 命数法、記数法、4 位数の位 取りの仕組みを理解する。 下p.52～54	①絵を見て、2354 個の一円玉の数を工 夫して数える。 ②2354 の数構成と命数法を知る。 ③数えた一円玉の数を数字で書き表す 方法を考え、記数法を知る。 ④用語「千のくらい」を知る。	[態度]既習を基に、10 や 100 と同じように 1000 の まとまりをつくって数 え、数字を使って表そう としている。【観察・ノート】
2	・ 空位のある 4 位数の記数法 を理解するとともに、4 位数 の位取りの仕組みの理解を 深める。 下p.55	①2054 を表す数カードを見て、その数 を数字で表す。 ②4 位数を読んだり書いたりする。	[知技]4 位数を読んだり 書いたりすることができ る。【観察・ノート】 [思判表]2 位数、3 位数の 仕組みを基に、4 位数の表 し方を考え、説明してい る。【観察・ノート】
3	・ 数カードを並べて数を表す ことを通して、10000 未満の 数の構成について理解する。 下p.56～57	①位取り板と数カードを使って各位の 数を読み取ったり、4 位数を数カード で表したりする。 * デジタルコンテンツ設定有	[知技]4 位数の各位の数 字はそれぞれ 1000, 100, 10, 1 の単位の個数を示 し、10 以上の数が入らな いことを理解し、4 位数の 構成を式で表すことがで きる。【観察・ノート】
4		①4 位数の構成を基にした表し方（合 成・分解）を練習する。 ②4 位数の構成を、等式を使って表す。	
5	・ 2300 などの数について、数 のまとまりに着目して数の 相対的な大きさをとらえる ことができる。 下p.58	①100 を 18 こ集めた数について考える。 ②2300 は 100 をいくつ集めた数かにつ いて考える。 ③数構成（100 がいくつ）に基づいて、 800+700 や 1000-800 の計算をする。	[思判表]数のまとまりに 着目し、2300 などの数を 100 を単位としてとらえ ている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
6	・数直線の読み取りを通して、4位数の大小、順序を理解する。 下p.59	①数直線の1目盛りの大きさや、指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。	[知技]数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。 【観察・ノート】 [思判表]数の相対的な大きさの理解を基に、1目盛りを100(10)として数直線をとらえている。 【観察・ノート】
7	・10000の構成、数の読み方、書き方及び10000付近の数を理解する。 下p.60～61	①図の●を工夫して数え、千を10こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くことを知る。	[知技]千を10こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くこと、及び10000付近の数を理解している。 【観察・ノート】 [思判表]数直線の目盛りの大きさを、数の相対的な大きさを基にとらえ、説明している。 【観察・ノート】
8		①数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。 ②4位数の大小を、不等号を使って表す。 ③数直線上で10000付近の数を読む。	
9	・10000までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。 下p.62	①3800を、多様な見方にとらえ、言葉や式で表す。 ②500とびで数を数えたり、大きい数から小さい数へ順に2とびで唱えたりする。	[思判表]数の構成に着目し、10000までの数の多様な見方について考え、説明している。 【観察・ノート】
まとめ 下p.63～65 2時間			
10	・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下p.63	[いかしてみよう] ①身の回りから数が使われている場面を探し、数には、ものの大きさを表しているものと、表していないものがあることを知る。	[思判表]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 【観察・ノート】 [態度]学習内容を生活に生かそうとしている。 【観察・ノート】
11	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.64～65	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】

単元名	14. 長い 長さを はかって あらわそう [長い ものの 長さの たんい]			教科書の ページ	下 p.66～73
配当時数	6 時間	活動時期	1 月下旬～ 2 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		長いものの長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、長さについて量の感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さについて単位と測定の意味や、単位の関係を理解し、およその見当をつけながら量の感覚を身につけるとともに、長さの単位を適切に選択して身の回りのものの長さを測定し表現することができる。
	思考・判断・表現	上位単位の必要性に気づき、身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの長さに関心を持ち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 長い ものの 長さの たんい 下p.66～70 3 時間			
1	[プロローグ] 下p.66 ・長さを表す単位「メートル (m)」を知り、1m=100cm の関係を理解する。 下p.67～68	①p.66 の写真を提示し、「ひろ」と、「あた」「つか」の比較についての話し合いを通して、長いものの長さについて考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①両手を広げた長さを 30cm 物差しではかる。 ②120cm について、上位単位の必要性を考える。 ③長さの単位「メートル (m)」を知り、1m=100cm の関係を確認する。	[知技]長さを表す単位「メートル (m)」と、1m=100cm の単位関係を理解している。【観察・ノート】 【思判表】上位単位の必要性に気づき、身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている。【観察・ノート】
2	・同じ長さを、○m○cm と、○cm の両方で表すことができる。 下p.69	①掲示板の横の長さを、加法を適用し、「メートル (m)」、「センチメートル (cm)」を用いて、長さを表す。	[知技]同じ長さを、○m○cm と、○cm の両方で表すことができる。【観察・ノート】
3	・測定活動を通して 1m の量感を養う。 下p.70	①床から 1m の高さだと思う体の箇所を予想し、1m 物差しを使って確かめるとともに、床から 1m の高さにある体の箇所を把握する。 ②1m 物差しを使って、いろいろなものの長さを見当をつけてからはかる。 ③指定された長さについて、適切な単位を選ぶ。	[知技]1m 物差しを使って、長さを正しく測定することができる。【観察・ノート】 【態度】量感を基に、見当をつけて長さを測定しようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.71～73 3時間			
4 ・ 5	・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下p.71	[いかしてみよう] ①「テープものさし」を作成し、いろいろなものの長さを測定する。	[思判表]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 【観察・ノート】 [態度]学習内容を生活に生かそうとしている。 【観察・ノート】
6	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.72～73	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】

単元名	15. 図をつかって考えよう [たし算とひき算]			教科書の ページ	下 p.74～81, 111
配当時間	5 時間	活動時期	2 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(エ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		加法と減法の相互関係について理解し、数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえる力を養うとともに、加法と減法の相互関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	加法と減法の相互関係について理解し、加法と減法の相互関係を表した図を用いて、図や式に表し、問題を解決することができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえている。
	主体的に学習に 取り組む態度	加法と減法の相互関係に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算とひき算 下p.74～79 4 時間			
1	[プロローグ] 下p.74 ・加法逆の減法(未知数が後に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 下p.75～76	①p.74 の図を見て、□で隠れている枚数についての話し合いを通して数量の関係をとらえ、図を使って加法と減法の関係について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①テープ図を基に、数量の関係をとらえる。 ②加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	【知技】加法と減法の相互関係を理解し、場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。【観察・ノート】 【態度】加法と減法の間を簡潔にとらえられるというテープ図のよさに気づき、場面を表そうとしている。【観察・ノート】
2	・減法逆の加法(未知数が先に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 下p.77	①テープ図を基に、数量の関係をとらえる。 ②減法逆の加法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	【知技】場面を表したテープ図を基に、減法逆の加法の問題を解決することができる。【観察・ノート】
3	・加法逆の減法(未知数が先に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 下p.78	①テープ図を完成させ、数量の関係をとらえる。 ②加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	【知技】場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	・減法逆の減法の問題づくりを通して、場面をテープ図や式に表現し、問題を解決する力を伸ばす。 下p.79	①減法逆の減法の問題づくりを行う。 ②つくった問題場面をテープ図に表し、問題を解決する。	【知技】場面を表したテープ図を基に、減法逆の減法の問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえている。【観察・ノート】
まとめ 下p.80～81, 111 1時間			
5	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.80～81	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.111 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、加法と減法の相互関係についての理解を深める。			

単元名	16. 分けた 大きさの あらわし方を しらべよう [分数]			教科書の ページ	下 p.82～90, 112
配当時間	5 時間	活動時期	2 月中旬～下旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(カ), イ(ア)

単元の目標		1/2 や 1/3 などの簡単な分数について知り、同じ大きさに分けるという操作に着目して分けた大きさの表し方を考える力や、2 つの数量の関係に着目して倍や分数の意味についてとらえる力を養うとともに、具体物や図などを用いて数学的に表現・処理した過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	具体物を操作することなどによって、1/2 や 1/3 などの簡単な分数について知り、いくつかに分けた大きさの 1 つ分をつくりそれらの大きさを分数を使って表すことができる。
	思考・判断・表現	元の大きさと分けた大きさの関係や、分けた大きさは全て等しいことに着目して分数について考えたり、2 つの数量の関係に着目して倍や分数の意味についてとらえたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	具体物や図などを用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 分数 下p.82～87 3 時間			
1	〔プロローグ〕 下p.82 ・ 半分にした大きさを二分の一といい、1/2 と書くことを理解する。 下p.83～84	①p.82 の絵を見て、同じ大きさに分けた 1 つ分の表し方についての話し合いを通して、分けた大きさの数字を使った表し方を調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①正方形の紙を半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ②二分の一の意味と書き方を知る。 ③元の大きさの 1/2 の 2 つ分は、元の大きさになることを確かめる。 ④長方形の紙を半分に折って切り、元の大きさの 1/2 を作る。 ⑤元の大きさの 1/2 かどうかを判定する。	【知技】半分に分けた 1 つ分を、元の大きさの二分の一といい、1/2 と書くことを理解するとともに、紙を折って元の大きさの 1/2 を作ることができる。 【観察・ノート】
2	・ 四半分にした大きさを四分の一といい、1/4 と書くことを理解する。 下p.85～86	①長方形の紙を半分の半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ②四分の一の意味と書き方を知る。 ③用語「分数」を知る。 ④元の大きさの 1/4 の 4 つ分は、元の大きさになることを確かめる。 ⑤八分の一の意味と書き方を知る。	【知技】四半分に分けた 1 つ分を、元の大きさの四分の一といい、1/4 と書くことを理解するとともに、紙を折って元の大きさの 1/4 を作ることができる。【観察・ノート】 【思判表】元の大きさと分けた大きさの関係や、分けた大きさは全て等しいことに着目し、分数について考えている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	・3つに等分した1つ分の大きさを三分の一といい、 $\frac{1}{3}$ と書くことを理解する。 下p.87	①同じ長さになるように3つに分けたテープの1つ分の長さを、分数を使って表す方法を考える。 ②三分の一の意味と書き方を知る。 ③元の大きさの $\frac{1}{3}$ の3つ分は、元の大きさになることを確かめる。	[知技]3つに等分した1つ分の大きさを三分の一といい、 $\frac{1}{3}$ と書くことを理解している。【観察・ノート】 [思判表]元の大きさと分けた大きさの関係や、分けた大きさは全て等しいことに着目し、分数について考えている。【観察・ノート】
(2) ばいと 分数 下p.88～89 1時間			
4	・2つの数量の関係に着目し、倍や分数の意味についてとらえることができる。 下p.88～89	①2人のテープの長さを比べ、りくのテープの長さはあみのテープの長さの2倍、あみのテープの長さはりくのテープの長さの $\frac{1}{2}$ であることを確かめる。 ②2つのテープの長さについて、一方は他方の2(4)倍、他方は一方の $\frac{1}{2}$ ($\frac{1}{4}$)であることを確かめ、まとめる。	[思判表]2つの数量の関係に着目し、倍や分数の意味についてとらえている。【観察・ノート】 [態度]2つの数量の関係に着目し、倍や分数の意味についてとらえようとしている。【観察・ノート】
まとめ 下p.90, 112 1時間			
5	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.90	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.112 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、分数についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.91
配当時数	—	活動時期	2月下旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・既習内容の理解を確認する。 下p.91	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】

単元名	17. はこの 形を しらべよう [はこの 形]			教科書の ページ	下 p.92～97, 113
配当時数	5 時間	活動時期	2 月下旬～ 3 月上旬	学習指導要 領の内容	B(1)ア(ウ), イ(ア)

単元の目標		箱の形をしたものを観察したり作ったりする活動を通して、正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し、図形を構成する要素に着目してとらえる力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	箱の形をしたものの構成要素について理解し、正方形や長方形を組み合わせたり、ひごなどを用いたりして、箱の形を構成することができる。
	思考・判断・表現	頂点、辺、面などの図形を構成する要素に着目し、箱の形の特徴を見だし、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの形の中から、箱の形をしたものを見つけ、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) はこの 形 下p.92～96 4 時間			
1	[プロローグ] 下p.92	①身の回りから探した箱の形についての話し合いを通して、図形への興味・関心を高め、箱の形について調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 15 分程度)	
2	・箱の形(直方体や立方体)に親しみ、立体と平面の関係を知り、その面の形や数をとることができる。 下p.93～94	①箱の作り方について考える。 ②箱の面を紙に写し取る。 ①用語「面」を知る。 ②紙に写し取った箱の面の形や数を調べる。	[知技]箱の形について、面は 6 つの長方形や正方形で、向かい合った面は合同であることなどを理解している。【観察・ノート】 [態度]箱の形に関心を持ち、その特徴について調べようとしている。【観察・ノート】
3	・組み立てた箱を考察することを通して、箱の形についての理解を深める。 下p.95	①写し取った面の形を切り取って、同じ長さの辺や向かい合う面などに着目してつなぎ合わせ方を考える。 ②箱を組み立てる。 ③6つの面をつないで組み立てても箱の形にならない場合について、その理由を考える。	[思判表]同じ長さの辺や向かい合う面の特徴や関係をとらえ、組み立て方を考え、説明している。【観察・ノート】
4	・直方体や立方体の頂点、辺の数などの構成要素を理解する。 下p.96	①箱の形の骨格模型を作るために必要な粘土玉(頂点)の数とひご(辺)の長さや本数を調べる。 ②1つの頂点には、違う長さの辺が1本ずつ集まることをとらえる。	[知技]箱の形(直方体、立方体)には、面が6つ、頂点が8つ、辺が12あることなど、図形の構成要素を理解している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.97, 113 1時間			
5	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p. 97	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】
【発展】巻末 p.113 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、箱の形についての理解を深める。			

単元名	計算ピラミッド			教科書のページ	下 p.98～99
配当時数	2 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容	A(2)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	既習内容を総合的に適用して問題を解決することを通して、問題解決の能力を伸ばす。 下p.98～99	①計算ピラミッドに取り組み、既習の加減計算の練習をする。	【思判表】ピラミッドの下のますに同じ数を入れたときのきまりについて考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】意欲的に計算ピラミッドに取り組もうとしている。【観察・ノート】
2		①p.99 上の問題に取り組み、下のますに同じ数を入れたときのきまりを見つける。 ②p.99 上の問題で見つけたきまりが、他の数でも成り立つかどうか確かめる。	

単元名	2 年の ふくしゅう			教科書のページ	下 p.100～104
配当時数	4 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容	A～D

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1 ～ 4	既習内容の理解を確認する。 下p.100～104	①問題を解決する。	【知技】既習内容について解決の仕方を理解し、問題を解決することができる。【観察・ノート】